

MILANO SALONE 17-22 APRIL 2018 HALL 7

201∞ / COLLECTION THE HIGHLIGHTS



70周年を迎えた Minotti は、4人のデザイナーが参加した記念すべきコレクションを発表しました。1人目は、Minotti とのコラボレーションが20年目となる Rodolfo Dordoni、2人目は日本人としてはじめて Minotti 作品を手がけた NENDO (佐藤オオキ氏)、3人目は昨年参加したフランス人デザイナー、Christophe Delcourt、4人目は初参加のブラジル サンパウロの建築家 Marcio Kogan です。

Minotti の世界観を構築し成熟させた Dordoniのもと、世界から集うデザイナーたちの個性が響きあい、調和を生み出した作品群となりました。メイン展示にそびえる巨大なマンツルピース(暖炉)は、建築家 Gigi Radice 設計による Minotti ファミリーの自宅を再現しています。暖炉を中心に今年の代表作をならべ、過去から未来へと Minotti の変遷をたどるダイナミックな空間を作り上げました。

Minotti



ALEXANDER (アレクサンダー)

D = Rodolfo Dordoni
(ロドルフォ・ドルドーニ)

1998年から続く Minotti と建築家ロドルフォ・ドルドーニのコラボレーションは、今年で20年目を迎えました。その円熟したデザインの完成形ともいえるのが、アレクサンダーソファシステムです。曲線を描くアレクサンダー DROPとアレクサンダーRAYによって、ソファのコーナー部分に、今までにないポジショニングが生まれました。背もたれの高さは2段階から選べ、削ぎ落とされたシンプルなフォルムでありながら、クラシカルでエレガント。機能も充実した、現代に求められるソファシステムへの回答となりました。



GRANVILLE (グランヴィル)

D = Christophe Delcourt
(クリストフ・デルクール)

昨年、Minotti で衝撃的な新作を発表したクリストフ・デルクールが、今年にはソファに挑戦しました。ドルドーニ以外のデザイナーが Minotti のソファを手掛けるのは、初めてとなります。波のうねりを思わせるダイナミックなシェイプで構成され、デイベッドのように大きなクッションが、今までにないソファの寛ぎを生み出します。背を向き合わせながら会話したり、ソファに脚を投げ出したりと、新しいコミュニケーションと寛ぎの姿を、角度をつけたL型シェーズロングや2種類の奥行きなど多彩なパーツによって提案しています。



RUSSELL (ラッセル)

D = Rodolfo Dordoni
(ロドルフォ・ドルドーニ)

チャーミングなフォルムのチェアシリーズです。柔らかな座り心地のソファタイプや、すっきりした脚のダイニングチェア、ヘッドレストを取り付けたハイバックなどがあり、金属脚のように見えるダイニングチェアの脚部も、他と同じ木製パーツで出来ています。



TAPE (テープ)

D = NENDO
(ネンド)

ホスピタリティ空間向けの、小ぶりなサイズのチェア、ソファシリーズです。テープをデザインモチーフとして、脚部の金属パーツとレザーのパーツを同じ形で揃えています。背のクッションには重りを入れ、起き上がり小法師のように自立します。レザーとファブリックの組みあわせが豊富で、強い個性を放ちます。ネンドは他に、カッパーのリングが印象的な RING coffee table や海の波をモチーフにした WAVES side table をデザインしました。



ALBERT&ILE (アルベルト、イレ)

D = Gigi Radice
(ジジ・ラディチェ)

70周年を記念したヒストリカルアーカイブ。Minotti の創業者で現社長兄弟の父アルベルトと、母のイレの名を冠した作品です。元となったのは1950年代、建築家ジジ・ラディチェによってデザインされたチェアで、ラディチェが設計した Minotti ファミリーの家でも使われました。Minotti のルーツを表現した作品です。今年はウィーンなどで、70周年記念イベントも開かれます。



DAN (ダン)

D = Christophe Delcourt
(クリストフ・デルクール)

内に秘めた輝きを持つ、ミニマリズムを体現したテーブルです。脚部の外側はマットブラック。内側を輝きのあるカッパーやライトブロンズで彩っています。円形で直径最大 200 センチ、楕円形で長さ最大 300 センチまでのスケールがあり、カラカッタマーブルの天板など、迫力のあるダイニング空間を演出します。



QUADRADO (クアドラード)

D = Marcio Kogan
(マルシオ・コーガン)

ブラジルの建築家マルシオ・コーガンによるアウトドアシリーズです。大阪万博の頃、日本から世界へ発信された建築思想メタボリズム。その影響を大きく受けたコーガンは、この家具にもメタボリズムの発想を反映させました。格子状のチーク材のベースに、ソファクッションや背もたれなどをジョイントし、様々なパターンのパーツを組み合わせることで、豊かなエクステリア空間を無限に広げられます。